

Book Review



口を診る・生活を読む

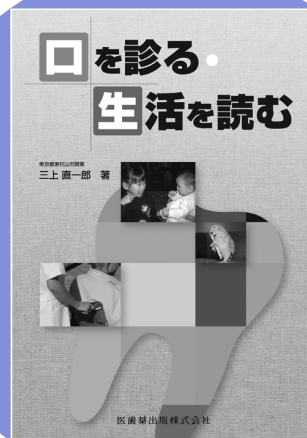
三上直一郎 著



Reviewer

丸森英史 Hidefumi Marumori
(神奈川県・丸森歯科医院)

B5 判, 112 頁
オールカラー
定価 (本体 3,800 円+税)
医歯薬出版刊



一人の歯科医の生き様をまとめた本である。

中身のキーワードはセルフコントロール。それを患者さんに伝えるため医院一丸となって歩んできた歴史が書かれている。良きスタッフを育て、またそのスタッフに支えられているミカミ歯科医院の40年になる記録である。

症例報告のかたちをとっているが、治療技術の話ではなく、医療がどのように患者さんに届くのか、患者さんの人生のクオリティに寄与できるのかを常に問いつけた報告である。症例報告から患者さんの生活が浮かんでくる。しかし治療効果をアピールするでもなく、自慢話やお説教臭さの全くない、実に三上先生らしい本の中身である。

学生時代の三上先生を知る私にとって、驚くのは学生時代からこの本のような歯科医療を目指していたということである。学生時代から三上先生は熱き存在であった。「やりたいことがあったから歯科医になった」——そんな雰囲気があった。

大学を卒業後、治療技術を開業医で学んだ後、ご自分の育った町で診療を始めた。歯科医としてのキャリアを積むなかで試行錯誤は当然あるであろうが、長い経過症例からぶれない臨床姿勢が伝わってくる。長い経過はその開業当初から続いている患者さんであろう。はじめからそのつもりだったようである。今でいう地域医療を目指していた。まさにその思いを込め、かたちにした書籍である。

歯科医でありながら、常に病気の向こう側にある患者さんの生活や価値観に思いを馳せ、ときには「お節介おじさん」を演じることもあるようである。秘めた熱き思いをもちかかわっている姿が、臨場感豊かに書かれている。学術書でありながら、「語り」に満ちた書籍である。

患者さんの言葉を実によく拾っている。病状の診断はもとより、歯科医としてスタッフとともに何を感じ、何を考えたのか、迷いも含めた現場の雰囲気伝わってくる。医院でスタッフの

皆さんと読みあうことをお勧めしたい。三上先生らしい優しい端的な語り口はスタッフ皆さんと読み進めるに最適と思える。

ちょっと知っておいたほうがよい知識もコンパクトにまとめてある。禁煙の指導に必要な知識や、食生活への指導のポイント等々、さらに下野正基先生監修による歯肉を診るために必要な病理的な解説もコラム的に解説されている。これから向かう超高齢社会に対するポイントにも触れられている。

むしろ歯予防から歯周病のコントロールまで、家庭医として、また地域の医療を担う歯科医として、またミカミ歯科医院で何を大事にして臨床が進んでいるのか、読み進めるうちに目の前に浮かんでくるようである。

歯科医としてこのようなまとめができたことに、うらやましさを感じる書籍である。これからの歯科医院の方向性を模索している方々にもぜひ、一読されることをお勧めしたい。